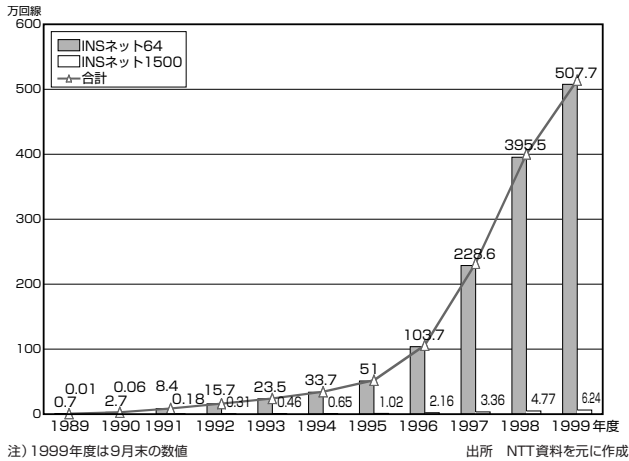


# 第1章 通信ネットワーク

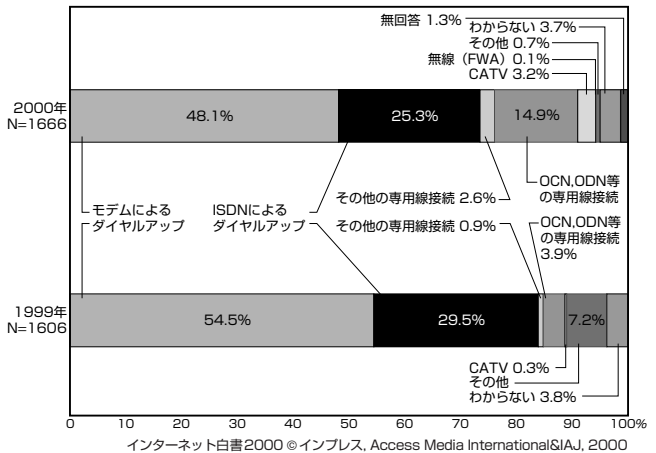
## ISDN / 専用線

## ISDNが500万回線突破

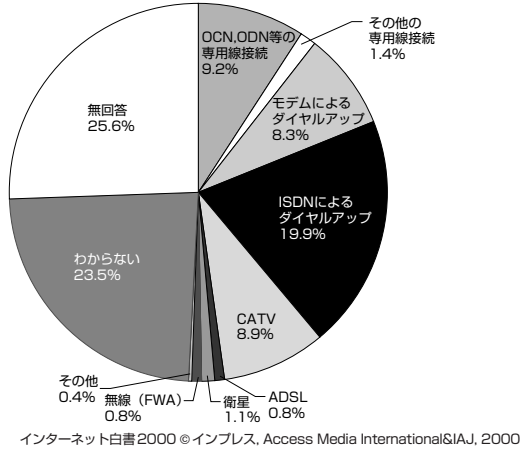
資料4-1-7 INSネット契約回線数の推移



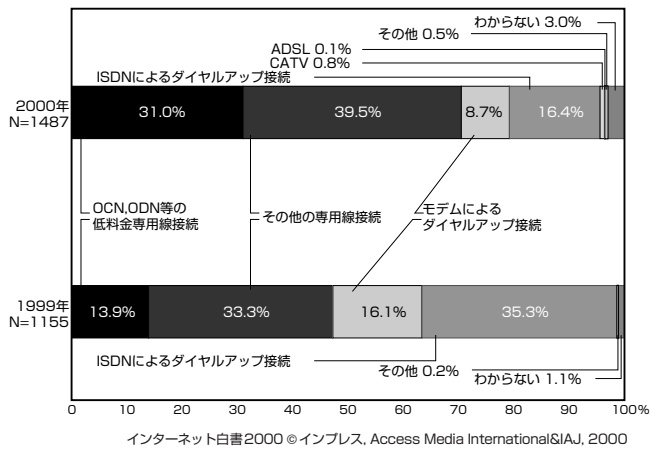
資料4-1-8 インターネットのおもな接続方法におけるISDNの割合



資料4-1-9 インターネット接続方法の今後の利用意向におけるISDNの割合 N=1666



資料4-1-10 企業における専用線接続の割合



### 解説

ISDN回線はデジタル通信回線なので、普通の電話回線に比較して通信速度が速く、さらに1回線で通常の電話2本分として使え、インターネット接続をしながら電話やFAXが利用できる。そのため、まさにインターネットを利用するための回線ともいえ、利用者は毎年増加している。1999年9月末には、NTTのINSネット64とINSネット1500の契約数合計が、500万回線を突破した(資料4-1-7)。

だが、ISDN回線の契約数が着実に増加しているにもかかわらず、インターネット利用者人口の増加率はさらにその上をいっている。そこでインターネットのおもな接続方法におけるISDNの割合を見てみると、ISDNの割合は縮小傾向にあることがわかる(資料4-1-8)。昨年の調査結果と比較すると、モデムによるダイヤルアップ接続が6.4%、ISDNによるダイヤルアップ接続が4.2%それぞれ減少

し、全体的に接続形態がダイヤルアップ型から専用線型へ移行しつつあるということがよくわかる。さらに今後の利用動向を見てみると、ダイヤルアップ型の減少化傾向がより顕著にみられる。しかし、無回答を含め意向が決まっていない利用者が49.1%いることから、現実にはどの方式を選ぶべきか暗中模索の段階といえる(資料4-1-9)。

企業におけるインターネットのおもな接続方法を見てみると、昨年51.4%あったダイヤルアップ型が25.1%にまで減少し、昨年47.2%だった専用線型が70.5%まで増加している。企業では専用線型への移行が、一般の利用者と比較してより顕著だといえる(資料4-1-10)。

(井上尚司 フリーランス)



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)